

5月25日正午必着

明石春浦先生書



石橙茶清香暑後。書窓梧桐韻晚涼餘（鄒炳泰）

石の机の上には茶の香気が清く、書齋の窓には梧桐の聲が涼味を伝える。

明石幸子書



山里の春の夕暮来て見れば 入相の鐘に花ぞ散りける（能因）

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



森戸春濤書

修竹不<sub>レ</sub>受<sub>レ</sub>暑 (杜甫) 竹林は自然に涼しい風がある。

和<sub>レ</sub>神養<sub>レ</sub>素 (王右軍)

神<sub>を</sub>和<sub>ら</sub>げ素<sub>を</sub>養<sub>う</sub>

和神は精神をやわらかくし、まことを養うこと。素はまこと。まごころ。

百里望<sub>二</sub>咸陽<sub>一</sub> 知<sub>二</sub>是<sub>一</sub>帝京域  
緑樹搖<sub>二</sub>雲光<sub>一</sub> 春城起<sub>二</sub>風色<sub>一</sub> (呉邁遠)

百里咸陽を望み 知る是れ帝京の域なるを  
緑樹雲光揺れ 春城風色起る

百里のあなたの咸陽を眺めれば、まさにこれぞ都の地であると知れる。緑の樹は雲間の光にゆらめき、春の城には春のけしきがみえてきた。

題<sub>二</sub>薦福寺衡岳禪師房<sub>一</sub> (韓 翃)

薦福寺の衡岳禪師の房に題す 韓 翃

春城乞<sub>レ</sub>食還 高論此中閑

春城 食を乞うて還り 高論 此の中に閑なり

僧臘塔前樹 禪心江上山

僧臘 塔前の樹 禪心 江上の山

疎簾看<sub>レ</sub>雪捲 深戸映<sub>レ</sub>花關

疎簾 雪を見て捲き 深戸 花に映じて閑す

晚送<sub>二</sub>門人去<sub>一</sub> 鐘聲杳靄間

晚に門人を送り去る 鐘声 杳靄の間

おのづから出でて流るる 山清水 澄みも濁りもなき世なりけり

(安藤 野雁)

半紙部規定課題A

5月25日正午必着

盈 明  
虚 月  
幾

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

5月25日正午必着

行書

明月幾  
盈虛

隸書

明月幾  
盈虛

明石春浦先生書

草書

明月幾  
盈虛

行草書

明月幾  
盈虛

世の中はいったいどうなっているのだろう 東西にはるか離れて過す私たち  
いつもすぐにも会えるかと思いつながら かえってながく便りもないということになってしまっ  
田の麦は深く茂って雉をかくし 淮河の苔むす岸辺、水浅くして魚が見えている  
懐しく思慕しながら会うことができないままに あのさやかな月が幾たび満ち欠けたことか

寄友人

張蠟

世道復何如  
東西遠索居  
長疑即見  
面翻致久無  
書旬麥深  
藏雉淮苔  
淺露魚相  
思不我會  
明月幾盈  
虛

友人に寄す

張蠟

世道 復た何如  
東西 遠く索居す  
長に疑う 即ち面を見るかと  
翻つて致す 久しく書無きを  
旬麥 深く雉を蔵し  
淮苔 浅く魚を露わす  
相思 ども 我と会せず  
明月 幾たびか盈虚せし

(出典)

朝日新聞社刊  
「三体詩」下より



司徒臣雄司空臣戒稽首言。魯前相瑛書言。詔書崇  
 司徒の臣雄、司空の臣戒、稽首して言す。魯の前相の瑛が書に言う。詔書に、聖道を崇め

司徒臣雄司空臣貳稽  
首言魯前相瑛書

司徒の臣雄、司空の臣貳、稽首して言す。魯の前相の瑛が書に（言う。）

雄 司 徒 臣

司徒の臣雄、司（空の臣貳）

後漢・乙瑛碑

建碑が流行し、隸書の黄金時代といわれた後漢時代（二五～三二〇）には八分による隸書碑が数多くみられる。

乙瑛碑は永興元年（一五三）の建碑で、後漢の桓帝の時に魯の宰相乙瑛が申請して、百石卒史一人を置いて孔子廟を守らせることになったことの次第と、そのことに功績のあったものを顕彰する碑である。全十八行、一行四十字で、当時の公文書をそのまま刻み込んであり、文書研究の資料としても極めて大きな価値を持つ。現在、山東省曲阜の孔子廟の碑林にある。

時代的には「石門頌」（二四八）と「孔宙碑」（一六四）の間の建碑であり、書体においても「孔宙碑」ほどの流麗さはまだあまり見られないが、「石門頌」のような奔放な書体からは脱しており、後漢時代の隸書体の変遷を物語っているといえよう。

引き締まった結体に雄健な筆力、のびやかな横画と力強い波磔。腕を大きく動かして、波磔の終筆部分の筆圧のかけ方に注意しながら、リズムミカルな運筆を心がけたい。

（春濤）



かん

せい

中学一年

雨宮春聲先生書



こ

どう

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



こく

ぎ

小学五年

榎戸春龍先生書



こう

ちや

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



5月25日正午必着



こう

たい

小学三年

藤田幸春先生書



しん

たい

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

て つ 小学一年・幼年



森戸春濤書

まる  
円 い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

5月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

を 買 う こ と に し た	目 次 を 見 て こ の 本
--------------------------------------	--------------------------------------

小学五年

け て 本 を 読 も う	声 の 強 弱 に 気 を つ
---------------------------------	--------------------------------------

小学六年

欲 を 持 っ て 取 り 組 む	勉 強 に ス ポ ー ツ に 意
---	---

中 学

朝 の 並 木 道 を 散 歩 す る	風 が と て も ア ワ ヤ カ な
--	--

一般(級位)

す ま ま の 顔 が う ら や か い な ら う	夕 日 の 音 は あ は れ の こ え の よ う
--	--

一般(段位)

五月關（おぼつかなきにほとときす ぶかき嶺より 鳴きていづなり）（源 實朝）

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

そ	こ
ら	い
を	の
	ぼ
お	り
よ	が
ぐ	

幼年

三	か
つ	し
た	わ
べ	も
ま	ち
し	を
た	

小学一年

が	ま
	ど
み	か
え	ら
ま	三
し	日
た	月

小学二年

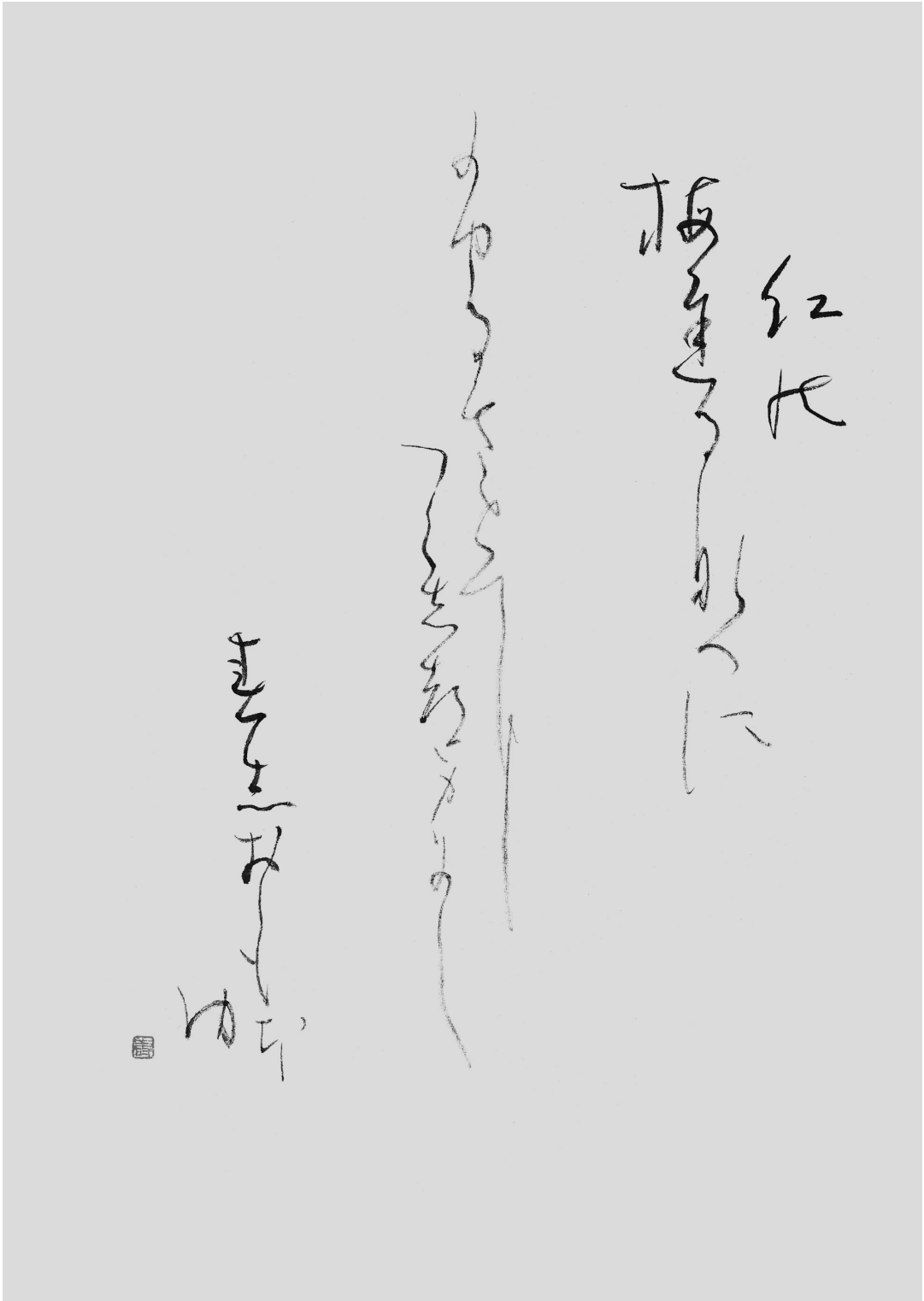
を	日
け	帰
い	り
か	の
く	り
す	よ
る	行

小学三年

り	色
と	の
し	明
た	暗
絵	が
で	は
す	っ
	き

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

紅くれなるの  
能の  
梅遅那ちるなへに  
布ふるさとに  
耳つくしつみにし  
久志都身尔  
春しおもほゆ  
志本  
(正囿子規)

※なへに（並へに）…につれて、…と同時に、